opusdei.org

「聖霊を悲しませて はいけません」なま ぬるさ(2)

なまぬるさを脱ぎ捨て、鷲のように翼を張って高く上るための具体的なヒントを提供します(シリーズ:戦い、親しさ、使命 「4])。

2025/02/14

前回の記事を読む

なまぬるさの予防と処方箋

「狐たちをつかまえてください ぶど う畑を荒らす小狐を。わたしたちの ぶどう畑は花盛りですからし(雅歌 2.15)。なまぬるさは、神に対する 細やかさを失ったとき、信頼が無頓 着へと変わったときに、霊魂に根を 下ろします。確かに、私たちは神に 非の打ち所がないものを捧げること はできないかもしれません。しか し、神に対して繊細であり、気遣い を持つことはできます。そして、自 分が神をぞんざいに扱ってしまった ことや、愛が足りなかったことに気 づいたときの痛悔もその細やかさの 一部です。そのため、小さなことに 注意を払い、愛に抵抗する自分に気 づいて痛悔の心を呼び覚ますことが 大切です。たとえば、活動にばかり 目が行き祈りの時間を省略したり遅 らせること、自分のことを優先して 夕食に遅れること、怠惰のために奉 什を先延ばしにすること、不機嫌な

顔を人に向けたりすることなどについてす。こうしたことにおいても痛悔することが、魂に再び明かりを灯します。「そう、また新たにはじめるのです。毎日、毎時間、そして協しまるたびに、私はまた新たにはじます。きっとあなたもそうでしょう」
m。

先に、自己を糾明する態度の重要性 について触れました。これは、神と 自分自身に対して正直になることを 前提としています図。神へ向かう道 において私たちに同伴してくれる人 に対する誠実さ・素直さはそこから 生じます。この素直さは、陶工の手 中にある粘土団のような態度で、聖 霊が私たちのうちにキリストを形作 ることを容易にし、私たちの愛を生 き生きと保ちます。「誠実さとなま ぬるさは相容れません。ですから、 誠実であるならば、戦う力を得て、 なまぬるさの危険な道から抜け出す ことができます | [4]。

神への愛を若々しく保ち、新たにす るには、他者との関わりのなかでそ の愛を生きることが大切です。聖ホ セマリアは「炭火が燃え上がらない とき、それは冷えてきている証拠で あり、すでにほとんどが灰になって しまっているということである | 151 と語っています。確かに、他の人が 神に近づくことや、私たちの道を歩 むことへの望みが燃え上がらないな ら、それは私たち自身が眠り込んで しまったというしるしかもしれませ ん。目覚めるためには他者に心を向 けることが効果的です:「自分のこ とは忘れてしまいなさい。あなたの 兄弟のため、人々のため、教会のた めだけを考えて生きる、一言でいう と、神のために生きることこそがあ なたの野心でなければならない|

[6]_o

また、寛大な心を持つことは、なまぬるさに対する特効薬です。私たちの人生における最良のもの、最も貴

重なものを主に捧げるのです。聖ヨ ハネは、イエスがベタニアに滞在し ていたとき、「マリアが純粋で非常 に高価なナルドの香油を一リトラ 持って来て、イエスの足に塗り、自 分の髪でその足をぬぐった。家は香 油の香りでいっぱいになった」(ヨ ハネ12・3) と記しています。私たち の最高の香油、最も大切な宝、最良 の時間は主のためにあるべきです。 逆に、ユダのように「なぜ、この香 油を三百デナリオンで売って、貧し い人々に施さなかったのかし(ヨハ ネ12・5) と考えるようになったら、 危険な兆候です。ユダにとって、イ エスのためにお金、労力、時間を費 やすことは〈割に合わない商売〉で した。実際、ユダは後にイエスを奴 隷の値段で売ってしまいます(マタ イ26・15参照)。小さな、あるいは それほど小さくない犠牲や克己は、 私たちを内側から照らし、なまぬる さを遠ざけます。それらは、私たち の心が、すべての弱さを抱えながら

も、大きな愛を持てることを思い出させてくれます。「主よ、私を人間的な喜びに対しては雪のように、御手のもとでは陶土のように、愛においては炎のようにしてください」

これらすべての処方箋は、聖パウロ の次の言葉に要約できます。「神の 聖霊を悲しませてはいけませんし (エフェソ4・30)。聖霊は私たちの うちにキリストを形作るために休み なく尽力しています。しかしその業 を実現するために、私たちのその霊 感に対する俊敏で素直な応答を必要 とします。聖霊の導きに従えば、計 **算や妥協といったなまぬるさを脱ぎ** 捨て、鷲のように翼を張って高く高 く上ることができますぽ。そして人 生は使命感を得、冒険に満ちたもの になります。「キリストによって生 きることを選んだ者は、自分のいる 場所を自ら決めるのではなく、派遣 されたところへと向かいます。呼び

かけに応える心構えを持ち、自分の 時間を持ちません。住む家は自分の ものではなく、教会と世界が彼の使 命が展開される場所となります。彼 の宝は、人生の中心に主を置くこと にあり、それ以外のものを求めませ ん (…)。主と共に満ち足りてお り、凡庸な人生に甘んじることな く、証人となり他者と出会う強い望 みを持ち、リスクをいとわず、出か けていき、決められた道をただ進む のではなく、聖霊の示す道に心を開 き、それに忠実です。〈なんとな く〉生きるのではなく、福音を伝え ることに喜びを見出しますして。

* * *

私たちの母である聖母の生涯には、 なまぬるさの影は微塵もありません。燃える柴が神の現存の象徴であるなら、その柴は、神の愛の炎である聖霊の現存のうちで輝きながらも 燃え尽きることのないマリアを表し

- <u>[1]</u> 聖ホセマリア『主との対話のう ちに』12番。
- [2] 聖ホセマリア、手紙1、34番参照。
- [3] エレミヤ18・6参照。

- [4] 聖ホセマリア、1941年12月8日指針、注釈122。
- [5] 聖ホセマリア(San Josemaría, palabras recogidas en Crónica, 1973, pp. 640-641 [AGP, biblioteca, P01]).
- [6] 聖ホセマリア『拓』630。
- [7] E. デ・チャンポルシン(E. de Champourcin, Presencia a oscuras, Rialp, Madrid, 1952, p. 21)。
- [8] イザヤ40・31参照。
- [9] フランシスコ、説教、2016年7月 30日。
- [10] ローザンヌの聖アマデオ、聖母についての説教(San Amadeo de Lausanne, Homilías marianas [Sources Chétiennes, 72], III, 313-317)参照。
- [11] 聖ホセマリア『道』326番。

José Brage

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/combat-closeness-mission4-2/(2025/11/21)